□ふれあいとうるおいのあるまち
地域情報紙Vol.33夏号
No.116

はばたき20

夢と希望と…羽田イノベーションシティグランドオープン

羽田空港跡地「HANEDA GLOBAL WINGS」第1ゾーンにおいて、公民連携でまちづくりを進めてきた羽田イノベーションシティが、昨年11月16日に無事グランドオープンを迎えることができました。このことは偏に羽田地域の皆様のご理解とご協力の賜物であり、改めて御礼申し上げます。

グランドオープンセレモニーでは、神山連合会長様をはじめとする地域の皆様や国土交通大臣、東京都知事など、大変多くの来賓の方々にご臨席いただき、羽田の地に新たに生まれたまちの門出を見守っていただきました。

羽田イノベーションシティ外観

このまちは、様々な民間企業等が未来へとつながる最先端技術の研究開発に日々挑戦する場であるとともに、この場所に暮らしていた人々が戦後四十八時間強制退去を強いられたという、とても悲しい歴史を持つ地でもあります。区は、羽田イノベーションシティを含む羽田空港跡地第1ゾーン整備において、この歴史を未来の世代へと伝承することを重点プロジェクトの一つに掲げています。天空橋駅の交通広場には、地域の関係団体等から寄贈いただいた旧三町顕彰の碑とともに旧三町復元タイルや解説パネルを設置し、この地を訪れる多くの方々に羽田の歴史を伝えています。

夏祭り盆踊り

このように歴史を伝承していく役割を果たしていく一方、人々の生活がより豊かになるための最先端の研究開発が日々行われています。累計六万六千人以上という国内最多の乗車実績を誇る自動運転バスが街区内を定常運行しているほか、調理から配膳までを全てロボットが行うレストランや、世界に数台しかない最先端の医療機器を備えた先端医療研究センターといった拠点も整備されています。このほかにも、数多くの民間企業等が、社会や地域が抱える様々な課題を解決したいという熱意を持ち、これからの未来を創る製品やサービスの開発に挑戦しています。こうしたチャレンジを応援するとともに、日本各地や世界とつながる羽田という立地を生かすことで、このまちで生まれた新たな製品やサービスを、羽田地域の皆様はもとより、世界中の人々にとって役立つものへと波及させていきたいと考えています。そしていつの日か、世界中で当たり前のように使われている製品やサービスの多くが「実は羽田で生まれたんだよ」となり、地域の皆様に誇りに感じていただける存在になることをめざしています。

羽田イノベーションシティは、まだ生まれたてのまちです。先端技術の研究開発だけでなく、日本各地の産品を集めたマルシェや先端技術に触れる体験型ワークショップなどのイベントも開催し、地域の皆様に楽しんでいただける取組を充実させることで、羽田地域の一員となれるよう公民が連携して努力していきます。

隣接する都市計画公園の整備も控えており、羽田空港跡地第一ゾーンのまちづくりはこれからも続いていきます。地域の皆様の引き続きのご理解と、あたたかなご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

自動運転バス

（大田区産経部イノベーション事業担当課）

第26回地域を語る会 ～ようこそ羽田へ～

令和六年三月二十三日(土)羽田地域力推進センター四階会議室で第二十六回地域を語る会が開催されました。テーマは『ようこそ羽田へ』と題して羽田の歴史と魅力を紹介いたしました。

今回は過去の講座から羽田の紹介をするために地域力推進羽田地区委員会の魅力創造発信分科会作成のスライドを用いて行われました。

今回の講座の講師は羽田旭町町会櫻井寛会長です。クイズも交えながら第一部がスタートし、羽田の名前の由来から始まります。平治年間の土着七氏から羽田が始まった記録があり、江戸時代には幕府の直轄地として保護されます。海・川・農業を通じての様々な産業の振興、更には鈴木新田(現在の羽田空港)開発が行われます。明治初年から羽田の海でもノリ養殖が開始され、人口の集積も進みます。そこに戦争が大きな影を落としました。爆撃による町の消失と戦後の羽田旧三町への強制退去命令です。ここで公益財団法人伊東奨学会発刊の「ふるさとの絵本シリーズ」の中から、羽田の旧三町の強制退去について描かれた「羽田　九月二十一日」の投影と朗読が地域情報紙はばたき20.伊藤編集委員長により行われます。会場はひと時の静寂に包まれました。

休憩の後、第二部が始まりました。高度経済成長期の工業化に伴う海・河川汚染による漁獲量減によるわが国最初の漁業補償に続いて羽田神社祭礼の歴史と復活に向けての地域活動から城南随一と言われる現在までが語られました。一度は町から消えた神輿が復活を目指し三基の手作り御輿から始まったことと注がれた地域の情熱が解説されました。

次に穴守稲荷神社の歴史に移り、鈴木新田の小さい祠が始まりであること。明治期から周辺の発展とともに栄えますが終戦時の強制退去により現在地に遷座され往時の姿を取り戻しつつありますとの説明に合わせて戦前の正月に川崎大師と旧穴守稲荷を結ぶ「早船」の映像が上映され受講者は興味深くご覧になっていました。

最後は、これからの羽田の町づくりの話題です。羽田イノベーションシティに建立の旧羽田三町顕彰碑と計画されている公園整備とともに過去の当講座で行われた地区小学校児童による「ふるさとの絵本シリーズ」の劇上演等を通じて児童生徒が地域に興味を持ち将来の地域の担い手としての活躍を待っていますとまとめられました。

地域を語る会は、羽田地域の歴史・風習・文化に対する意識の向上を図り、改めて羽田の歴史や魅力について知る機会となり、大変有意義な会となりました。

地域を語る会の様子

語り手：羽田旭町町会櫻井会長

☆　編集後記　☆

『はばたき20』の新年会が五年ぶりに羽田特別出張所にて開催されました。元旦におきた能登半島地震、コロナも落ち着き少しずついつもの生活に戻り始めた時で、あらためて地震の怖さを痛感し、又被災地の方々が早く元の暮らしになる事を祈りつつ、私達編集委員は、地域の事を発信していきたいと思います。

はばたき20副編集委員長　渡部　昌子

令和五年度新年会